

令和元年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立九段生涯学習館	所在地	千代田区九段南1-5-10
-----	--------------	-----	---------------

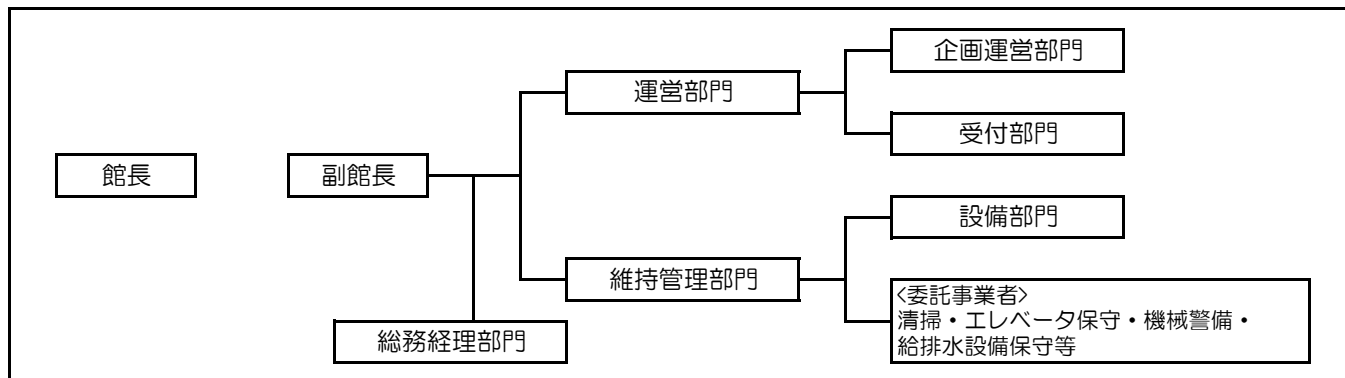
1 指定管理者の概要

名称	ミズノグループ		
代表団体	美津濃株式会社	代表者	代表取締役 水野 明人
所在地	大阪府中央区北浜4丁目1番23号		
構成団体1	株式会社小学館集英社プロダクション	代表者	代表取締役社長 都築 伸一郎
所在地	千代田区神田神保町2丁目30番地		
構成団体2	大星ビル管理株式会社	代表者	代表取締役社長 寺島 剛紀
所在地	文京区小石川4丁目22番2号		
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	報告期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	区民（区に住み、働き、学ぶ全ての人々をいう。以下同じ）の生涯学習の振興を図ることを目的とし、生涯学習活動を実践できる場の提供及び支援に関する事業を行う。
管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生涯学習館の施設の利用承認に関すること。 (2) 生涯学習関係団体の育成及び連携に関すること。 (3) 生涯学習の指導及び助言に関すること。 (4) 生涯学習活動の普及及び推進に関すること。 (5) 施設の保守及び維持管理に関すること。 (6) その他館の事業及び管理運営に関し必要な業務。

3 管理体制の状況



4 事業実績等

ア 施設利用

年度	総数	区民一般団体利用件数	事業利用件数
元	7,956	7,577	379
30	8,516	7,980	536
29	9,037	8,596	441

イ 主催事業

区民自主企画運営講座（8講座）、生涯学習教養講座（4講座）、人材バンク活用講座（7講座）、講師派遣（42団体）、児童生徒余暇事業（3講座）、家庭教育学級（8講座）、子ども自然教室、九段Lカフェ（3講座）、異世代交流事業（1講座）、区内生涯学習交流事業（新型コロナウイルスの影響により中止）、生涯学習ガイドブック（2,000部）、講座講習会パウチャー制度（496件）

ウ 施設等の維持管理業務

- ・建物、設備保守管理
- ・施設清掃業務（害虫駆除含む）
- ・警備業務

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料収入	88,891,041円	人件費	51,076,647円
施設利用料金収入	7,900,100円	委託費	10,908,720円
個別指定事業収入	3,979,950円	事業運営費	38,978,504円
独自事業収入	493,480円		
その他収入	185,712円		
合計（①）	101,450,283円	合計（②）	100,963,871円
収支差額（①－②）	486,412円		

6 指定管理者による自己評価

	サービス提供に関して	収支に関して
元年度	<p>施設利用実績が前年度を大きく下回る結果となったが、全フロアの空調改修工事と年度末の新型コロナウイルス感染拡大によるサークル活動の自粛によるものと考えられる。ただ、現状において利用率の低下が見られる部屋については利用率を上げるため、サービスの向上、新規サークル登録や施設の周知などに努めていく。新しい取り組みとして、今年度より「サービス向上委員会」を立ち上げ、より具体的なサービスの向上についてミーティングを重ね、館内BGMの導入、館外に向けた掲示板的ライティング設置、自動翻訳機の設置、また予約可能期間の前倒し（令和2年度より実施予定）など、様々な新規サービスをスタートした。この取り組みを今後も継続し、更なる施設のサービス改善と充実に努めていきたいと考えている。</p> <p>事業においては、「区民自主企画運営講座」や「生涯学習人材バンク活用講座」において、新規サークル登録や活動の活性化に貢献。講座から立ち上がったサークルも多く、新規の施設利用者が増えた年度となった。同様に「生涯学習団体1日公開講座事業」でも活動体験会の場を提供し、新たな会員獲得に助力した。新型コロナウイルスの影響によるライフスタイルの変化にも対応しサークル活動の鈍化や意欲の低下などに繋がらないよう、より一層の努力を継続していく。</p>	<p>施設利用料収入は、年度末の新型コロナウイルスの影響や大規模な空調改修工事による減少があり予算を大幅に下回る結果となった。個別指定事業はジュニアカレッジが好評だった為、複数回開催したことや、独自事業は九段Lカフェの講座が人気となり、予算を上回った。</p> <p>支出の人件費は職員の異動の際、新規職員への引き継ぎが発生したため、シフト上職員数を厚く配置する時期が発生し、予算を上回った。</p> <p>光熱水費は昨年度に引き続き削減することが出来た。気候の影響や消し忘れ等のチェックを行ったことや、大規模改修を行ったことで機器の性能が上がったなどの要因が複合的に重なったものと思われる。役員費は印刷通信費の増加があり、予算をやや上回る形となった。特に事業の広報活動で印刷にかかる費用が多く発生した。</p> <p>個別指定事業においては、年度末に中止になった講座や九段フェスなどにより、一部の事業費を残す形となった。次年度も経費を有効活用し、利用者満足度の向上に努める。</p>

7 区としての評価・今後の方向性

元年度	<p>施設利用実績については、改修工事による施設利用休止や新型コロナウイルス感染拡大に伴うサークル活動自粛など、明確な理由による一時的な利用率の低下はやむを得ないものと思われる。ソーシャルディスタンスの確保が求められるコロナ禍においては、小規模な部屋の利用率向上は困難が想定されるが、引き続き努力されたい。</p> <p>日常的な施設の受付業務においては、「サービス向上委員会」立ち上げの結果として、自動翻訳機の設置や施設予約可能期間の前倒しなど、利用者の視点に立ったきめ細かいサービスの向上が図られていることを評価する。</p> <p>実施事業に関しては、区民の企画を指定管理者が支援して実施する講座が、新しいサークルの発足や既存サークルの新規会員加入に寄与しており、生涯学習活動支援として有効に機能している。また、施設の新規利用者増加による施設利用率の向上も期待できる。</p> <p>昨年からのフェス形式で実施している区内生涯学習交流事業（「九段フェス2020」）は、参加団体にも好評で今年はより多くの参加が予定されていたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となった。生涯学習団体の交流拠点としての役割をさらに充実していくためにも、本事業の定着及び発展を望む。</p>
-----	---